

食育基本法に基づく「京都府食育計画骨子(案)」に対する
意見募集結果

- 1 募集期間 平成27年12月28日(月)から平成28年1月20日(水)まで
- 2 御意見提出件数 18人(団体)、52件(7項目)
- 3 御意見の趣旨及びそれに対する府の考え方

項目	御意見の趣旨	府の考え方	
京都ならではの食育の推進	きょうと食いく先生による、妊婦を対象にした、具体的なレシピ紹介も取り入れた「命の源からの食育～京の食材を利用した健やかな体づくり」等の出前授業を望みます。	第3次食育推進計画に記載されているとおり、きょうと食いく先生の出前授業に積極的に取り組んでまいりたいと考えています。	1
世代に応じた食育の推進	計画の案を見て、子どもたちだけでなく、全ての世代にとって食がいかにか大切であるかを学びました。食事は日々積み重ねるものであるため日々の食事の歪みが積み重なって大きな歪みになるように思えます。家族だけでなく、なるべく多くの人と食の大切さを共有したいと考えます。	第3次食育推進計画に記載されているとおり、全ての世代に対する食育に積極的に取り組んでまいりたいと考えています。	2
世代に応じた食育の推進	学校給食への地元農林水産物の供給品目の割合について、30%の目標設定は低く思うので、数値設定根拠の説明を求めます。	国が次期基本計画の中で30%に目標設定しています。京都府では完全給食校の米飯給食については、ほとんど府内産米を使用していますが、児童・生徒数や農業生産量等を踏まえれば、目標数値は低い数字ではないと考えています。	3
家庭における食育の推進	家庭においても、地元の食材を使用する取組を進めていくべきではないかと考えます。	第3次食育推進計画に記載されているとおり、地元の食材を使用するよう、積極的に取組を進めてまいりたいと考えています。	4
家庭における食育の推進	子どもの貧困は重大な問題であり、状況はじわじわと悪化しているように思われます。朝食だけでなく、そもそも食事をとれない子どもが増えており、フードバンクや子ども達に食事を提供する食堂等の対策も必要であると考えます。そのような視点を計画中に加えていただくよう求めます。	ご指摘の内容を第3次食育推進計画に記載させていただきたいと考えています。	5
家庭における食育の推進	朝食の欠食とは何を指しているのか、説明を求めます。	厚生労働省の調査によると、「食事をしなかった場合」、「錠剤などによる栄養素の補給、栄養ドリンクのみの場合」、「菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合」の合計となっています。(用語集を新たに設け、説明をさせていただきます。)	6
家庭における食育の推進	朝食をとるといふ行動変容を起こすためには、なぜ食べないといけないのかという知識を得るため、分かりやすく説明するとともに、朝食をとりやすい環境整備が必要と考えます。	第3次食育推進計画に記載されているとおり、朝食をとる行動変容を起こすよう、積極的に取組を進めてまいりたいと考えています。	7
ライフスタイルの多様化に対応する食育の推進	ライフスタイルが多様化するなか、家庭内での孤食が進み、コミュニケーションが不足するのであれば、職場や学校でのコミュニケーションのとれる食事を進めていけなかと考えます。	第3次食育推進計画に記載されているとおり、家庭以外の食事も大切にするよう、積極的に取組を進めてまいりたいと考えています。	8
家庭における食育の推進	成長期の子どもや若い世代にとって、体を形成する時期でもあり、極めて重要な時期ではないかと考えます。	第3次食育推進計画に記載されているとおり、成長期の子どもや若い世代にしっかりと食事をとるよう、積極的に取組を進めてまいりたいと考えています。	9
世代に応じた食育の推進	若い世代の食について、最近の過度のスマホ使用が問題であると思います。そのため、生活のリズムが乱れ、朝食の欠食が増えていると考えます。	第3次食育推進計画に記載されているとおり、食事だけでなく、生活リズムの改善がなされるよう、積極的に取組を進めてまいりたいと考えています。	10

項目	御意見の趣旨	府の考え方	
世代に応じた食育の推進	学校給食での地元農林水産物の供給について、地元産木材利用補助金のような、地元産食材利用に対する国の補助制度はありますか。また、学校給食で地元産食材を使用すると、子どもたちにどんな良い面がありますか。	農業の6次産業化を進める国の制度の中に、地元産食材利用に対する補助があります。 また、学校給食での地元産食材利用は、子どもたちに地域の食材、農業、行事等を学ぶ機会になるとともに、旬の新鮮な食材を食べることにもつながります。	11
健康増進につながる食育の推進	食育講座や学校の家庭科の授業の影響で、家族で食について話し合える状況になった経験から、口にする食べ物がどのように出来て誰が作っているかを知り、安心・安全の判断ができる学習を、子どもの頃から、また家庭においても取り組めるようお願いしたいです。	第3次食育推進計画に記載されているとおり、「食」に関心を持ち、様々な情報を適切に判断する能力が向上するよう、積極的に取組を進めてまいりたいと考えています。	12
健康増進につながる食育の推進	計画目標として、事業実績等アウトプット指標に加え、栄養調査や健康寿命延伸の取組に関する府民データ等を活用し、対策や目標を立てるとよりよいと考えます。	栄養調査や健康寿命延伸の取組に関するデータ等をもとに平成25年に策定した、総合的な府民の健康増進計画 きょうと健やか21(第2次)の中で取組を進めてまいりたいと考えています。	13
全般	第1章で第2次計画の達成状況は記載されているが、第2次計画の各施策での総括が見当たらないが必要はないか。その総括を受けての課題抽出等により、次期計画の策定につながっていくように感じるが、その点、目標の数値での比較だけで対応されるのか？	第2次計画の目標のうち、達成できなかったものについては、総括・整理し、必要に応じて第3次計画の目標にも再度掲げています。	14
世代に応じた食育の推進	(P4)第2章の1世代に応じた食育の推進の重点項目の中で「子どもや若い世代に対する食育の強化」とあり、若い世代においては、20歳代の朝食の欠食や20歳代女性のやせを問題視し、対策(P11)を述べているが、これについて評価できる計画目標の項目(P28)がある方がよいのではないか。	現状では、子どもの朝食欠食率が高いことから、この改善を優先した上で、将来的な若い世代の欠食率の改善にも繋がりたいと考えています。	15
世代に応じた食育の推進	(P5)で「お弁当の日」の取組について述べているが、対象を子どもだけとせず、全世代とし、若い世代への食育の強化に繋げてはどうか。(それに合わせ、計画目標の項目2(P28)についても要検討)	現状では、「お弁当の日」の取組が先進府県と比べると十分とは言えない状況であるため、この改善を優先した上で、将来的な若い世代の食育強化に繋がりたいと考えています。	16
文書表現	(P24)本文の説明だけでは、食育宣言のイメージ化が難しいのではないかと、P11のような例があると、わかり易い。 今後、市町村が食育宣言を行う者が増えるよう働きかけるうえでも、是非、例えがあってほしい。	「食育宣言」用語集で解説するとともに、イメージ図を追加します。	17
世代に応じた食育の推進	P.3(2)朝食を毎日食べる府内の小中学生の割合について 本市の計画策定時にも関係者よりいただいた意見だが、この点については府の理想を示すものとして100%としてはどうか。	まずは、現在の目標を達成した上で、次のステップで掲げたいと考えています。	18
文書表現	P.3～5語句の使い分けについて 「地元農産物」(P.3 3行目)、「地元産農産物」(P.3 12行目)、「地場産物」(P.5 28行目)は、何か理由があって使い分けしているのか。	文言修正します。	19
文書表現	P.4 1世代の応じた食育について 子ども、若い世代、壮年期、高齢者について、おおよその対象年齢を定めた方が見る人にとって分かりやすいのではないかと。(子どもは文中より「～高校生」と理解できるので、それ以外の世代)	世代については、法律で定められたものではなく、また、個人差もありますので、あえて定義することは避けたいと考えています。	20
文書表現	P.5～7語句のばらつきについて 食生活改善推進員(P.5 23行目)、「食生活改善推進委員」(P.7 10行目)の部分で、書き方は統一した方がよいのではないかと。	文言修正します。	21

項目	御意見の趣旨	府の考え方	
文書表現	P.4 1(1)ア現状と課題等 「極めて重要」という記述があるが、子どもの学校における食事の機会は1日のうちの三分の一に過ぎないため、「重要である」程度の記述にとどめるべきではないか。	朝食の欠食などにより、給食しか食べられない子どもも存在することから現行の書きぶりを継続します。	22
文書表現	P.5 (ア)幼稚園・保育所など 「～なっていると入学後の小学校教諭からの報告があります。」の表現方法が主観的なので、「～なっていると報告があります。」などでよいのではないか。	文言修正します。	23
文書表現	P.5 (イ)小・中学校「中学校給食の普及を図る必要があります。」という記述があるが、給食の実施は義務教育諸学校の設置者に委ねられており、京都府から発信する文書としてこの文言は適切ではないのではないか。	給食の実施は義務教育諸学校の設置者に委ねられており、市町村の状況に応じて実施の可否を定めるものと認識していますので、国の計画を踏まえた全体的な流れとしての表現にしています。	24
文書表現	P.6四角枠内「学校」などに期待される役割 「学校」などに期待される役割に記述されている内容(子どもたち～必要です。)は幼稚園・保育所やP.12の大学・企業にも同様に当てはまるものではないのか。	食育は、全ての世代に共通するものであることから、当てはまる部分も多くありますが、最も適した世代について、記載をしていますので、現行の書きぶりを継続します。	25
文書表現	P.9～10 朝食の欠食と学力の関係、体力の関係は、小中学生が対象なので、世代としては(1)子どもの食になるのではないか。	朝食の大切さを説明する上で、朝食を欠食した場合の唯一のビッグデータを使用しており、文書の後段で若い世代の朝食欠食率の高さに繋げていますので、現行の書きぶりを継続します。	26
文書表現	P.10「過度のスマホ使用」は、食習慣の乱れの原因とは言い切れないのではないか。(過度のスマホ使用による夜型生活の方が分かりやすい。)	文言修正します。	27
文書表現	P.10 9行目、10行目 「やせ過ぎ」ではなく、「やせ」の方がよいのではないか。(P11のグラフ内のBMI説明と合わせる。) (保健推進課)	文言修正します。	28
文書表現	P.11 5行目、P.12 あらかじめ親が納付しミールカード制度(親が年払い等)の導入 大学生なので、「親が」という表現は必要ないのではないか。 「納付」→「購入」の方が自然ではないか。 「極めて安価な(100円)朝食の提供」というのは、どのような質や量の食事を提供するのか。品質や栄養バランスを考えると100円での提供は難しいと思うが、費用の一部を大学が負担するという意味か。	納付については、購入に文言修正しますが、入学前の購入を「本人」がすることは想定しがたいので現行の書きぶりを継続します。	29
文書表現	P.11 イ「学力の向上が期待できる」という記述について、企業に対してまで説明する必要はあるのか。	後段に「など」という文言がありますが、これは、朝食の欠食と勤務業績との相関性を提示している民間データを意識していますので、現行の書きぶりを継続します。	30
文書表現	P.23 4(1)現状と課題等 個々人→「府民」の方が自然ではないか。 「皆で励まし合って、切磋琢磨するような環境」とは、具体的にどういうことか。 「また、身体に良い～考えられます。」という部分の内容が不明瞭。	多様化に関する記載であるため、個々人の方が適当と考えています。また、切磋琢磨するような環境とは、食育宣言を意図しており、この部分を詳しく記載します。また、不明瞭と考えられる部分は修正します。	31
文書表現	P.28 1目標一覧 目標一覧がどの施策にリンクするのか記載してほしい。	既に記載していますが、目立つように字体を変更します。	32
世代に応じた食育の推進	1実践型食育を実施している小・中学校の割合 公・私すべての学校が対象か。	私立も含めた全ての学校が対象です。	33

項目	御意見の趣旨	府の考え方	
ライフスタイルの多様化に対応する食育の推進	9食育宣言を行い、健全な食生活をおくる府民 食育宣言とは具体的にどのように行うのか。	用語集に食育宣言の解説をさせていただきます。	34
ライフスタイルの多様化に対応する食育の推進	10食事の配達事業を実施する「京野菜ランド」の数「京野菜ランド」ではなく「直売所」にするほうが良いのではないかと。「京野菜ランド」の要件に合う必要がない。	「京野菜ランド」は、「学ぶ」、「食べる」、「買う」機能のうち、複数の要件を満たすことが求められ、直売所とは異なるものと位置づけられており、食事の配達事業は、「食べる」機能の一部であることから「京野菜ランド」の方が相応しいと考えています。	35
京都ならではの食育の推進	11京都における季節の行事食などの研修会の実施 研修会は誰が対象か。	府民が対象です。	36
京都ならではの食育の推進	12「きょうと食いく先生」の授業数の増加 授業数とは、どこで行ったものか。基準が不明瞭。	食いく先生が行った授業全てが対象であり、学校以外も対象となります。	37
全般	目標全体について 目標を立てるまでの現状と課題について、府内の状況が十分に示されていない。(具体的な数値等がない。)	現状の数値については記載します。	38
文書表現	(1)第2次京都府食育推進計画(2011年～15年)では、食育推進計画を実行性のあるものにしていくために、関係者の役割について、「家庭(府民)」「市町村」「京都府」「学校」「職場」「活動グループ(NPO等)」「食品関連事業者」等のそれぞれの役割について整理されていました。第3次京都府食育推進計画(案)では、「食品関連事業者」「NPO等の食育ボランティア」「地域の活動グループ」「企業」「大学」等の関係者に期待される役割について示されていますが、「京都府」「市町村」の役割については触れられていません。府民一人ひとりが、食育に対する関心を高め、健全な食生活を実践する上では、「京都府」「市町村」がその役割を果たし、府民の健全な食生活を支える環境づくりに努める必要があります。第3次京都府食育推進計画に「京都府」「市町村」の役割について明記してください。	「京都府」は各項目の対策で記載されたことの実施を想定しており、関係者ではなく直接の実行者と考えていますので、現行の書きぶりを継続します。また、「市町村」についても京都府と同様に計画等を策定し、主体的に施策を実行する立場であると理解していますので、同様に現行の書きぶりを継続します。	39
文書表現	(2)第2次京都府食育推進計画(2011年～15年)では、「推進体制と計画の進行管理」について記されていましたが、第3次京都府食育推進計画(案)では、触れられていません。「推進体制と計画の進行管理」について明記してください。	明記します。	40
全般	(3)「NPO等の食育ボランティア」「地域の活動グループ」等の民間団体が積極的に食育活動に関わることは、消費者市民社会をつくる上でも重要です。京都府、市町村は、地域の食育に取り組む「NPO等の食育ボランティア」「地域の活動グループ」等の民間団体への支援を確実に位置づけてください。また、民間の力を生かした食育活動推進のための取組みに対して、財政等の支援を強めてください。	民間団体と京都府の関係の中で最も重視しているのが、「きょうと食育ネットワーク」であるため、この部分を細かく記載させていただきます。	41
全般	(4)第3次消費者基本計画(平成27年3月24日閣議決定)では、「消費者教育の推進」の項に「食育については、食品の安全性、栄養、食習慣などについての正確な情報の提供、食や農林水産業への理解増進など、国民の適切な消費生活の選択に資する取組の推進を図る。」と記され、食育を消費者教育の一つに位置づけられています。食育を消費者教育とすることは、食や食生活の課題から多分野の消費者課題への広がりが生まれ、さらに消費者力向上に繋がると考えられます。消費者教育の重要性が言われている今、京都府消費者教育推進計画との連携を図る意味からも、第3次京都府食育推進計画に「消費者教育としての食育」の文言を加えてください。	食育は「消費者」に対するものも含め、様々な人を対象としていますので、「消費者」も含め記載させていただきます。	42
健康増進につながる食育の推進	(5)新たに始まった加工食品の栄養表示制度は、減塩や栄養バランスを考え健康な食生活をおくるための情報として、消費者自らの健康づくりに役立てることが期待されています。表示を用いた栄養バランスや減塩等についての学習等の機会を設けてください。	現行でもそうした機会を提供していますが、さらにそうした機会を増やすよう取り組みます。	43

項目	御意見の趣旨	府の考え方	
健康増進につながる食育の推進	(6)グローバル化、多様化する社会の中で、消費者として「自ら学び、考え、選択する」視点は、食育にも必要です。第3次京都府推進計画骨子(案)では、p16、「2 健康増進につながる食育の推進」で、現状について「食は、身体健康増進につながるものであり、その知識の取得は、重要ですが、情報が氾濫する現代にあつては、誤った情報もあり、正しい知識が浸透しているとは、言い難い状況です。」と記されています。消費者として、情報を主体的に読み解き、必要な情報入手、活用していくことが求められています。メディア・リテラシーの学習等を強めていくことが今日的には重要になっていますので、具体的施策として検討ください。	既に実行している施策ですが、更なる拡充を図ります。	44
家庭における食育の推進	(7)今日的な課題としての「食品ロス」問題への対策が記されたことは歓迎します。府内の消費者団体のところでは、食品ロス削減に向けての取組みを推進している団体はまだ少ないと考えます。京都府の役割として、食品ロスについての現状と課題などについての学習等ができる機会を設けてください。	食品ロスに関する学習の機会が現状ではありませんので、府民大学等により学習の機会を提供したいと考えています。	45
世代に応じた食育の推進	第3次食育推進計画の「食選力」「調理力」を各世代に合わせさらに向上させていただきたいです。	そうした方向性取組を進めてまいります。	46
世代に応じた食育の推進	特に朝食を大切とする取り組みに賛成ですので、各世代での朝食をとりやすい近況づくりのさらなる推進を希望します。	そうした方向性取組を進めてまいります。	47
家庭における食育の推進	ただ、食品ロスの問題から、フードバンクの育成とありますが、具体的な対策が不明。	まだ、京都府では普及していませんが、そうした団体の掘り起こしから始めたいと考えています。	48
世代に応じた食育の推進	調理力・生活実践力を高めるために「お弁当の日」の実施校を30校との目標にありますが、どのように進められるのかも疑問。	まずは、「お弁当の日」の効用を、既に広く実施して先進地域の声を届けながら、広めていきたいと考えています。	49
健康増進につながる食育の推進	「きょうと健康おもてなし食の健康づくり応援店」の目標も800店舗とありますが、実現性があるのかも疑問。	アレルギー表示などの必要性の理解が進みつつありますので、実現可能と考えています。	50
ライフスタイルの多様化に対応する食育の推進	「食育宣言を行い健康な食生活をおくる府民」の育成も10,000人とありますが、どのように進められるのか具体的に不明。	イメージも含め、記載させていただきますが、SNS上での広がり想定しています。	51
文書表現	計画の中に出てくる「カロリー」という表記ですが、「エネルギー」としてもいいのではないのでしょうか。エネルギーの単位がカロリーであると解釈しております。些細な意見ですがお伝えさせていただきます。	一般的には、むしろカロリーの方がなじみがあることから、現行の書きぶりを継続します。	52